【北海道伊達市　指定文化財台帳】

<table>
<tr><td>指 定 主 体</td><td colspan="2">伊達市</td><td>指定番号</td><td>第４３号</td></tr>
<tr><td>名　　称</td><td colspan="2">胆振縦貫鉄道（いぶりじゅうかんてつどう）　徳舜瞥駅（とくしゅんべつえき）（国鉄胆振線（こくてついぶりせん）　新大滝駅（しんおおたきえき））跡（あと）</td><td>員　数</td><td>１</td></tr>
<tr><td>指定年月日</td><td colspan="2">2024（令和６）年７月１８日</td><td>種　別</td><td>史跡</td></tr>
<tr><td rowspan="2">所　有　者</td><td>氏　名</td><td colspan="3">伊達市</td></tr>
<tr><td>住　所</td><td colspan="3">北海道伊達市鹿島町２０番地１</td></tr>
<tr><td>所　在　地</td><td colspan="4">北海道伊達市大滝区本町 63 番地６の内</td></tr>
</table>

概　　要

1940（昭和 15）年に開通した胆振縦貫鉄道（後に国鉄胆振線）の徳舜瞥駅の跡地です。

この駅は、当初は始終点駅でしたが、1941（昭和 16）年に路線が延伸された後も中間基地として重要な位置を占め、同年に徳舜瞥鉱山から接続する索道が設置される等、戦中戦後期の鉱石や木材等の資源輸送に重要な役割を果たしました。

本市の公共交通史及び大滝区の産業史を伝える場所として極めて貴重です。